

ヨークピア

2021 年冬号



YOKE 小学生グローバル学習プログラム「たすねよう！横浜国際協力センター」
YOKE よこはま子ども SDG s 17 プラス 1

鶴見国際交流ラウンジ 外国人親子カンガルーサロン

「やさしい日本語」を使おう



公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE）

〒220-0012 横浜西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜
横浜国際協力センター 5 階

TEL 045-222-1171（代表） FAX 045-222-1187

E-mail yoke@yoke.or.jp

URL <https://www.yokeweb.com>

楽しい！
わかりやすい！

YOKE よこはま子ども

SDGs 17

プラス 1

1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 健康と長寿を促す

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 持続可能なエネルギー

8 働きがいも経済成長も

9 産業と雇用を創出

10 人や国が豊かになる

11 住み続けられるまちづくりを

12 消費を減らし、地球を大切にしよう

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさも守ろう

16 平和と公正

17 持続可能なパートナーシップを促す

18 国際交流 多文化共生



横浜市立上白根小学校（旭区）

SDGs の達成目標で「自分ができること」を探してみよう！

横浜市は、2018 年 6 月に「SDGs 未来都市」の選定をうけ、「環境」「経済」「社会」における課題解決や取組を推進しています。私たち公益財団法人 横浜市国際交流協会（以下、YOKE）も、横浜市と横浜市国際協力センターに入居する国際機関と連携しながら「YOKE よこはま子ども SDGs 17 プラス 1」というプログラムを 2020 年度から開始しました。「YOKE よこはま子ども SDGs 17 プラス 1」は SDGs で掲げる 17 の目標に「国際平和のために横浜の子どもができること」をプラスした横浜市ならではのプログラムです。「国際平和のために横浜の子どもができること」は、横浜市が推進する「『国際交流』『国際協力』『多文化共生』を通じた国際平和への横浜市の貢献」について知ってもらう機会となっています。

YOKE では、「YOKE よこはま子ども SDGs 17 プラス 1」の出前講座を市内の公立小学校で行っています(申込み制)。その一例として、2020 年 10 月 26 日に行われた横浜市立上白根小学校(4 年生)の様子と共にプログラムの内容をご紹介します。

「子どもたちの目線」を大切にしたプログラムづくり

SDGs は、17 のゴール・169 のターゲットから構成されています。17 のゴールをそのまま見たときに小学生が自分のこととして結びつけるのは難しいかもしれません。

「YOKE よこはま子ども SDGs 17 プラス 1」では、まず SDGs の 17 のゴールを「子どもの側(視点・立場・発達段階)」で理解できるように、ゴールの内容を子どもたちにもわかるように「ヒントの言葉」として書き換えをしました。書き換えには「子どもたちがゴールの内容を知り自分のこととして身近に感じ、できることを考え、行動に結びつけてほしい」という企画者の願いが込められています。

このように書き換えてみました



SDGs の 17 のゴールをわかりやすく書き換えて説明

アニメ学習ビデオで楽しく学ぼう！

「YOKE よこはま子ども SDGs 17 プラス 1」を楽しくわかりやすく学んでもらえる工夫として、アニメ学習ビデオを採用しました。アニメ学習ビデオは大学生の石塚さんと高浪さんが中心となり、約半年をかけて制作しました。初めて聞く言葉、初めて見ることも子どもたちに受け入れてもらいやすくするため、笑いの要素や覚えやすいキーワードをストーリーの中に盛り込み、時には自らダンスを披露するなど楽しく学習できるビデオとなりました。どのような見せ方をすると小学生のみなさんが興味を持ってもらえるかの工夫では、大学生のみなさんの力が大いに発揮されています。アニメに登場するキャラクターも前年の YOKE 実習生が考案したものです。また、アニメ学習ビデオ制作にあたり、横浜市国際局や国際協力センター各国際機関から多くの情報提供と協力がありました。このように「YOKE よこはま子ども SDGs 17 プラス 1」は多くの人の協力により作ることができたプログラムであることがお分かりいただけるかと思います。



アニメ学習ビデオ

制作者の紹介

映像クリエイター 石塚 瑛介

子どもたちに面白く、それでもしっかり学べるものを創り上げるとするのが最大の難関かつ、最も追求すべき着地点でした。それを実現するため自分の持っている知識、経験、技術すべてを総動員して全力で制作しました。子どもたちが真剣にビデオを見る姿に、YOKE の方から受けていたビデオへの高い評価を「このことか」と実感しました。子どもたちの学びのお役に立てて本当によかったです。



脚本助言人兼ダンス振り付け担当 高浪 凜

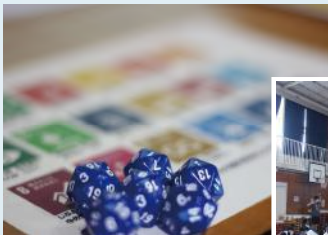
こんにちは。この度のビデオ作成に関わりました、高浪です。私達は、SDGs という一見難しい目標を、小学生にいかに分かりやすく伝えていくかという点に特に焦点を当て、映像の製作に励みました。私達の映像をきっかけに、プログラムへ参加した児童に、少しでも今日の地球の課題についてより身近に感じてもらえれば幸いです。

ゲームと歌で SDGs プラス 1 に親しもう！

「YOKE よこはま子ども SDGs 17 プラス 1」に更に親しんでもらえるよう、ゲームと歌を用意しました。ゲームはサイコロと「SDGs 17 プラス 1」のゴールが印刷されたシートを使います。サイコロを振って出た数と SDGs の 17 のゴールの中で同じ番号を探します。見つかったら目標を読み上げてチェックしていきます。サイコロを振ってなるべく多くのゴールにチェックを入れていくというゲームです。

子どもたちにもわかりやすく書き換えられた「SDGs 17 プラス 1」のゴールは、実は「横浜市歌」のメロディーに合わせて歌うことができるように工夫もされています。ビデオに出てくる歌と伴奏は、昨年度の実習生によるものです。

横浜市歌を歌うときに「よこはま子ども SDGs 17 プラス 1」のことを思い出してもらえたら嬉しいです。



ゲームで使用するサイコロとシート



ゲームを楽しむ児童

オリジナルガイドブックで SDGs をわかりやすく

子どもたちが「子ども SDGs」で行動するための具体的なヒントとなる「ガイドブック」も作成して、参加校に提供しています。

これは YOKE の実習生が原案を作ったものです。



上白根小学校の先生から

今回の講座で、SDGs がとても身近であることに大人も気づかされました。子どもたちは、学習や生活の中で「これって、〇番とつながっているかな」と関連づけています。

今までと同じ学習をしていますが、SDGs を知ることで世界が広がったように思えます。

上白根小学校 石井 壮頼 先生

YOKE 小学生グローバル学習プログラム参加校

(2020 年 11 月末現在)

10 月 13 日（火）つづきの丘小学校（都筑区）、10 月 26 日（月）上白根小学校（旭区）、10 月 29 日（木）梅林小学校（磯子区）

11 月 6 日（金）別所小学校（南区）、11 月 9 日（月）白幡小学校（神奈川区）、11 月 16 日（月）みたけ台小学校（青葉区）、11 月 20 日（金）山田小学校（都筑区）

YOKE 小学生グローバル学習プログラム 責任者より

「SDGs」は大人にですら十分に周知されているとは言えません。身近な「材」を使う「子どもの学び」との間にはもっと「ディスタンス」があります。当プログラムはそれを縮めることを目的としたものです。横浜市内でいち早く当講座に申し込まれたのが上白根小学校でした。それだけに「子ども SDGs」コンセプトを吸収しようとする子どもたちの姿は感動的でした。振り返ってみて、少し悔しいことに講座で「乗せられ」ていたのは私の方だったことです。

学年で取り組んでいる「地域防災」。今後「子ども SDGs の視点」でどう学習が展開していくか楽しみにしています。「上白根っ子」たちにまた会いに行きたくなくなってしまいました。

そして、これからこのプログラムを通して多くの小学生のみなさんにお会いできることを楽しみにしています。

（公財）横浜市国際交流協会 グローバル人材育成支援課長 今辻 千佳也



Information

YOKE 小学生グローバル学習プログラム「たずねよう！横浜国際協力センター」（一部横浜市受託事業・国際局からたくさんの方の支援を受けてプログラム作りを進めています。）

YOKE では、横浜市立小学校の児童を対象に「SDGs の基礎を楽しく学ぶ」「SDGs 取組目標への具体的行動の啓発」「自分の住む横浜を誇りに思う機会の提供」「子どもには難しい学びの領域へのやさしいアプローチ」を軸とした学習プログラムを用意しています。

学習プログラムに関するお問合せ

グローバル人材育成支援課「YOKE 小学生グローバル学習プログラム」担当

電話 045-222-1174（平日 9：00～17：15／土日祝 休館）

E-mail chikyu@yoke.or.jp

小学生のみなさんの学びのお手伝いをさせていただきます！



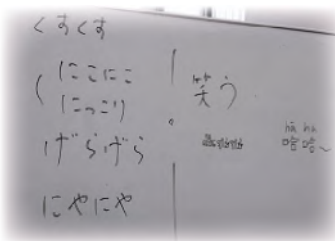
鶴見国際交流ラウンジ 外国人親子 カンガルーサロン

鶴見国際交流ラウンジでは、外国人のお父さん、お母さん、子どもを対象とした「外国人親子カンガルーサロン」（以下、カンガルーサロン）を月2回開催しています。カンガルーサロンでどのようなことしているのか、2020年11月9日開催時の様子と共にをご紹介します。



生活で使う日本語を学びます

生活や子育てで知っている便利な日本語を楽しく学びましょう。この日は、会話でよく使われたり、教科書に出てくるオノマトベについて学びました。笑うときの表現、「くすくす」「にこにこ」「げらげら」「にやにや」はどう違うかな？教科書にある「のっこり」ってどんな状態だろう？言葉では説明が難しいオノマトベの表現をボランティアの牛島さんが感覚的に理解できる工夫をしながらわかりやすく教えてくれました。参加者のみなさんも母国語と比較しながら楽しく参加していました。日本語だけでなく、参加者のみなさんの国のこと、言葉のこと、お互いのことを知る場にもなっています。



生活で使う日本語は、日本語学習教材で扱わない言葉が多くあります。また、今回テーマにとなったオノマトベは、言葉として知っていてもどのような状態なのかを感覚的に理解することは難しいかもしれません。カンガルーサロンでは、生活や子育ての中でよく使われる日本語を知ってもらうことで参加者の日本での暮らしがより良いものとなることを目指しています。

小さな子どもと安心して参加できます



カンガルーサロンでは、ボランティアが子どもたちの遊びのお手伝いをするので、安心して参加することができます。色々な電車が走る様子を見ることが出来る窓際は子どもたちの大人気スポット！室内でも子どもたちが楽しく安全に過ごせるよう準備をして子どもたちの参加をお待ちしています。子どもが多く参加する日はみんなで一緒に手遊び歌や読み聞かせを楽しんでいます。カンガルーサロンで、子どもたちも一緒に楽しい時間を過ごしましょう。



2012年当時、育児中の親が日本語教室に通うことができない、親子で受入れることができる日本語教室が少なかったことがカンガルーサロンを始めた理由の1つでした。カンガルーサロンでは、外国人のみなさんが日本語学習や情報交換に安心して参加できるよう、ボランティアが子どもたちに付き添っています。子どもが多く参加した日はみんなで一緒に楽しむことができる遊びを行うなど、その日の様子に応じたプログラムを用意しています。

楽しい、役立つ「情報コーナー」

日本語を学んだ後は、休憩をはさんで「情報コーナー」が始まりました。今日のテーマは「子どもの節目のお祝い」です。ボランティアが七五三の写真を見せながら「みなさんも七五三のお祝いをしましたか？」と問いかけます。「やりました」「見たことがあります」などの反応の他、母国の似た風習についても話が広がります。色々な話をしていくうちに、話題はご近所情報に。情報コーナーでは、参加者のみなさんから寄せられる情報もとても役に立っているようです。



参加者のみなさんの話を聞きながらボランティアの牛島さんがキーワードとなる言葉や言い方をホワイトボードに書き出しています。このように、参加者同士のおしゃべりから必要な言葉や情報を見つけ、日々の生活で役立ててもらえる言い方や情報を伝えています。「最近、SNSの発達で情報が入手しやすくなりました。一方で情報過多となり、情報の選択や正しい情報と誤った情報の判別がむずかしくなっています。このような中、外国人のみなさんへ正しい情報を必要な時に伝えていくのも私たちの役割であると考えています」（牛島さん）

多くの人に参加してもらいたい 参加者から支援者へ、そして地域へ

新型コロナウイルス感染症の影響で1つの場所に集まることがむずかしい状況となっていますが、カンガルーサロンではより多くの外国人のみなさんに参加してもらいたいと考えています。今後は行政との連携しながら外国人のみなさんにカンガルーサロンを知ってもらえるようにしていきたいと話していました。そして、参加者としてカンガルーサロンに来ていた外国人のみなさんが今度は支援者としてカンガルーサロンに参加してくれることも期待しています。カンガルーサロンだけではなく、地域住民として声を伝えることができるようになることもカンガルーサロンボランティアの願いです。



みなさんの参加をおまちしています！



カンガルーサロンの参加者と
ボランティアのみなさん
(2020年11月9日)

子育て中の外国人のみなさん
子どもと一緒にカンガルーサロンで
楽しく過ごしましょう！

カンガルーサロンは、外国人のお父さん、お母さん、子どもたちの参加をお待ちしています。おじいちゃん、おばあちゃん参加も大丈夫です。日本語を話さなくても大丈夫です。日本の生活で知っている便利なことや日本語について勉強したり、自分のことや住んでいる町のことを一緒に話しましょう。参加したい人は、連絡してください。

鶴見国際交流ラウンジ（多言語対応可）
電話 045-511-5311

話そう！書こう！ やさしい日本語



横浜市には、約 160 国・地域から来た人々が 10 万人以上暮らしています。使う言葉は、その人の出身国・地域によって様々です。では、外国人のみなさんとコミュニケーションをとるとき、私たちはどの言葉を使うと良いのでしょうか？

下の図は、令和元（2019）年度に実施された横浜市の外国人意識調査の報告の一部です。横浜시에住む外国人のみなさんのうち、76.6%の人は日本語を話すことができます。68.9%の人は日本語を読むことができます。そして、76.8%の人は日本語を聞くことができます。

この報告から、多くの外国人のみなさんは日本語でのコミュニケーションが可能であることがわかります。
日本で暮らす外国人のみなさんの多くが日本語を学んでいた、学びたいと思っています。外国人のみなさんとコミュニケーションをとるときは、まず「やさしい」日本語を使ってみてください。「やさしい日本語」は日本人も外国人も歩み寄ることができる唯一の言葉です。
私たちが相手に合わせて、どのような日本語を使うとわかりやすいか、どのような工夫を取り入れて伝えとわかりやすいか多くの引き出しを持つことで外国人のみなさんとのコミュニケーションが豊かになることでしょう。
「やさしい日本語」について興味がありましたら、私たちのホームページを見てください。「やさしい日本語」の使い方のヒントなどを紹介しています。
さあ、一緒に「やさしい日本語」を使いましょう！

YOKE やさしい日本語

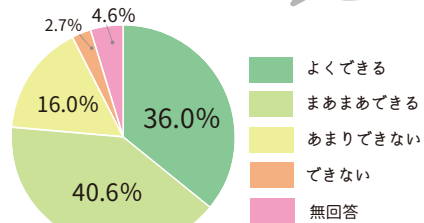
検索

<https://www.yokeweb.com/yasashiinhongo/>

横浜で暮らす外国人
のみなさんの多くが
「日本語を話す・読む・
聞く」ことができます。

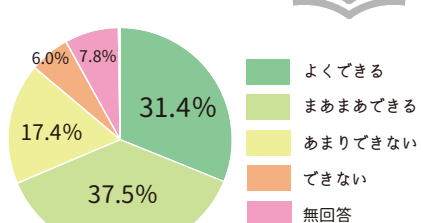


話す



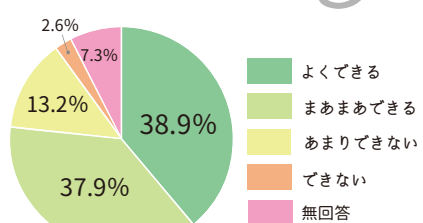
76.6%の人は
日本語を話すことができます。

読む



68.9%の人は
日本語を読むことができます。

聞く



76.8%の人は
日本語を聞くことができます。

＜参考＞ 令和元（2019）年度外国人意識調査／横浜市 対象者 市内に居住する満 20 歳以上の外国人 5,000 人

横浜市多文化共生総合相談センター 相談の現場から

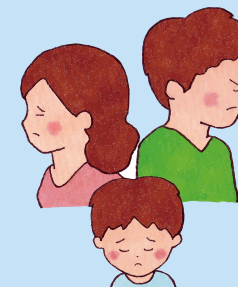


Q

中国出身で、在留資格は「日本人の配偶者等」です。結婚して4年になる日本人の夫との間に3歳の子がいます。身体的な暴力はないのですが、夫は私のことを尊重してくれず、ケンカばかりです。夫は毎日飲み歩いて散財し、生活は苦しく将来の生活に希望が持てません。離婚した方がよいか迷っています。

A

お子さんもまだ小さいのに、ご不安なことと思います。
ご夫婦の関係がよくないとのこと、まずは一方的に離婚届を提出された場合に備え、区役所に「離婚届不受理申請」をすることをおすすめします。そのうえで、しっかりと考えていきましょう。
離婚制度についてですが、日本では、夫婦で離婚の話し合いがまとまれば協議離婚ができます。夫婦で結論が出ない場合は、裁判所で調停を行い、それでも不調となった場合は裁判離婚となります。
お子さんの親権を得て離婚した場合は、「定住者」として日本で子育てを続けることができる可能性はありますので、入管外国人総合相談支援センターや行政書士相談などで専門家に相談してみましよう。



横浜市多文化共生総合相談センターでは、外国人のみなさんからの質問に 11 言語で対応しています。
お気軽にご連絡ください。 電話 045-222-1209

寄付をいただきました。

2020 年 11 月 13 日、当協会の活動を長年にわたりご支援いただいている団体：国際ソロプチミスト横浜西の田村様は、新型コロナウイルス感染症により団体の活動が制限されている中、今年も来所され小野崎理事長に寄附金 50,000 円を手渡されました。いただいた寄附金は、外国人の支援事業のために有効に活用させていただきます。このように厳しい状況の中、本当ありがとうございました。



支援したい事業を選ぶことができます。



寄付の御協力をお願いします。

留学生支援 外国人子ども教育支援 在住外国人への情報提供支援 国際交流・教育支援

☒ 寄付金額 1,000 円 / 1 口以上、金額は寄付者の方の任意です。
☒ 講座番号 00250-3-74434
☒ 加入者 公益財団法人横浜市国際交流協会

詳細はお問合せください。



新年のご挨拶

新たな年を迎え、皆様にとって幸多い年となりますようお祈り申し上げます。
昨年は、新型コロナウイルスの影響を受け、世界中に不安が広がり、社会経済活動が停滞しました。そんななか、外国人の方々を支援し、多文化共生の取り組みに尽力いただいた皆様方に心から感謝申し上げます。

私ども YOKE も、これまで経験のない状況に直面し事業の見直しを余儀なくされましたが、ICT を活用するなどして外国人の方々に対する支援を継続するとともに、課題解決に向けた事業推進に努めました。特に、昨年は、地域における日本語教育の総合的な体制づくりを始めたところであり、関係団体との連携や教室の運営などを進めています。
今後も、皆様のお力を得ながら、YOKE の使命を果たしてまいりたいと存じますので、よろしく願いいたします。

公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE）理事長
小野崎 信之



謹んで新年のご挨拶を申し上げます

